

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270202163		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム スマイル 3F		
所在地	〒857-0805 長崎県佐世保市光月町4番11号		
自己評価作成日	平成21年12月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

市内中心部でありながらも静かな雰囲気の中で生活している。入居者は買い物や散歩を多く楽しむことができる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地理的に利便性の良いビルの2・3階にあるホームは、住み馴染んだ環境での生活の継続を加味して利用をされている。馴染みの店に買い物に行かれたり、自宅に立ち寄りたり、見守りの中、自由な生活を支援されている。利用者の安全に配慮して、外出の際に携帯電話及び、通報システムの持参を声かけ、安否確認に繋がっている。また、近隣の派出所へ利用者の入居状況の報告もされている。あえて日課を組まず、縛りのない日常生活のケアに努められている。今年度は、職員の退職に伴い馴染みの関係が希薄になり不安もあったようだが、現状では落ち着いた雰囲気での新たな職員との馴染みの関係構築に努められ、資格取得に向けて勉学中の職員もあり、穏やかな中に熱意が感じられるホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7212島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月20日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
		3. たまにある		3. たまに
		4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほとんどの職員が共有しているが、新人職員がいるためすべての職員が理念共有しているとは言えないため、現在共有に向けて取り組んでいる	基本理念とそれぞれのユニットの理念にそって、家庭的な利用者主体の気ままな生活の支援に努め、一緒に暮らしている家族としての関わりを大切に、常に、理念に立ち返り実践に繋がられている。	
(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の納涼祭に地域の子供が参加している。また、地区の文化祭や夏祭り、防犯パトロールへの参加もおこなっている	馴染みの地域で生活できることで入居された方は、ホームを生活の基盤として町内の将棋倶楽部に向いたり、文化祭で手芸作品を見たり、利用者の意向で活動の継続ができるよう地域での関わりを大切に支援に努められている。	
	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等では地域の方と交流を通じて少しでも理解してもらえるように取り組んでいるが、介護教室の受入については実現できておらず今後の課題である		
(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は人員不足のため開催ができなかったため、早急に開催したい	職員の離職に伴い、会議の開催を継続することが難しくなり、平成21年3月以降未開催の状況であったが、新人職員が加わり雰囲気も変わり落ち着きが得られたので、今後多方面への参加をお願いして開催を考えられている。	会議開催の経緯はあられるので、会議の参加者、内容を工夫して2ヶ月に1回を目途に、開催されることに期待したい。
(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村との連絡・相談の体制はとれている	市より直接入居の依頼などがあり、具体的な相談に対応されている。また、市の担当課に直接向いて手続きをするなど、前向きな連携に取り組まれている。	
(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策として施錠している時間帯もあるが施錠に頼らず、徘徊のある入居者については声かけ等で落ち着いてもらうよう拘束にならない対応をしている	外出届を書いて自宅に行ったり、気兼ねな散歩に出かけるなど、行動を抑制しない対応をされている。言葉の拘束については、職員同士で注意し合い家族への説明を繰り返して行い、理解を得られるように努められている。	
	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会にて学ぶ機会を設け、また入浴時の皮膚観察時にも異常あれば報告できるような体制は整えている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前にも必要な入居者に対して社会福祉協議会や包括支援センター市の保健士に相談したケースもあり権利擁護については理解しているが介護職員についてはまだ理解できていないのが現状である		
	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族に対して契約の詳細な説明をした上で納得・同意した上で契約している		
(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には職員との会話出来る雰囲気心がけ、要望や意見を聴き取る機会を設けている。必要に応じて月2回の職員会議を儲け、問題点を共有できるように徹底している	立地的に家族の訪問頻度は多く、職員とも顔馴染みになり、利用者の状況は、その都度報告することができる。家族の意見・要望は、職員から管理者へ伝達し、検討してできること、できないことへの返答を必ず行うように努められている。	
(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案については職員会議の他、いつでも聴き取りができるようにして、代表者や管理者が必要に応じて対応している	職員の離職に伴い、不安な時期もあったようだが、今は落ち着きを得られ学びの環境として、自らの介護に向けた意識も変わり、資格取得に向けて取り組む姿勢が窺える。話し合いの場での交流や休息の時間も得られている。	
	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の年齢や体力、本人の希望休暇などできる限り聞き入れられるよう努力している		
	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会をしたり、外部に研修に参加する等取り組みしている。新人職員が自立できるまでは指導役をつけるなど考慮している		
	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流をおこなったり、他施設の運営推進会議の知見者として参加している		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	必ず本人が納得してもらうように相談の段階から問題点を探り関わりを持つようになっている		
	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	面談・見学において時間前に要望その他聞き取りをおこない問題点の引き出しに努力している		
	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入所の有無に関わらず、相談あった場合は応じて適切なサービスを紹介する等対応している		
	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	その時の状況に応じて子や孫のように接したり、一緒に調理をしたりすることで関係を築いている		
	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族の無理のない範囲で外食や外出、病院受診を要請したりして関係を築いている		
(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	そのような場所がある人には家族・知人の協力を得ながら途切れないように支援に努めている	利用者に年賀状を書いて頂き、希望に沿えるように努められている。馴染みの関係継続の支援が困難なこともあるが、家族の理解と協力で実現に努められている。	
	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	コミュニケーションが苦手な入居者については、職員が仲介するなどの工夫をしている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に家族が面会に来たり、こちらからも他の施設や病院に面会したりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が困難な場合は家族や知人に依頼して希望に沿った生活ができるように支援している	利用者との関わりを大切に、記録に追われるケアにならないためにも簡素化した記録で、担当職員が常に思いの把握に努め、希望に沿った暮らし方の支援に努められている。	
	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から生活環境の把握に努め、家具を持ち込んだり、ライフスタイルや1日の流れ等を少しでも新しい生活環境に慣れるよう努めている		
	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過については申し送りで情報を共有し、過去分についてカルテに記載して共有化を図っている		
(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や関係者の聞き取りを踏まえてアセスメントしてカンファレンスを開き、アイデアを出し合って現状のケアプラン作成に努めている	職員の担当制により、利用者及び家族の意向を踏まえてケアの内容を細分化した介護計画の作成に努め、支援経過記録・日課表によって実践を確認しながら、状況の変化に応じ定期的・随時の見直しで暮らし方の支援に努められている。	
	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過は毎日記録し、プランの実践についてチェックしている。必要に応じてミニカンファレンスを開き、変更や見直しに活かしている		
	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、送迎、買い物等個別のニーズには対応している		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去に地域資源を活用したケースがあり、個別に応じて対応できる体制はあるが、今現在ニーズがない		
(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医師をそのまま継続しているようにしている。家族の協力も依頼するケースもある	かかりつけ医の受診を変更しないようにしているが、病状の変化に応じて家族に相談をして、適切な医療施設への受診に努められている。	
	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しながら異常ないか、日々の状態を報告できるように体制を整えている		
	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に医師と面談したり状態を確認して早期に退院できるように努めており、その関係づくりもおこなっている		
(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は家族との話し合いをおこないい、共有・同意をした上で事業所ができることについて説明し了解を得ている	すでに看取りの経緯があり、医療処置が必要な場合は入院となるが、すべてにおいて段階的な医師と家族の話し合いを行い、医師の判断と家族の了解のもと、必要があれば看取りの説明が行われている。	
	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や協力医療機関があり、かつその専門スタッフに救急対応を依頼できるため、職員には徹底・周知していないが、連絡体制の徹底はしている		
(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施をおこなっている。連絡網には町内会長を入れ、協力体制をとっている	年に2回、消防署立会いの避難訓練及び自主誘導訓練(避難誘導場所・正面玄関とベランダ)を実施されている。他に、スプリンクラー設置、火災通報装置の設置もされている。	更に、安全管理体制強化に努めるために、自然災害(地震・水害等)に備えての訓練の実施と備蓄(食糧・飲料水等)及び利用者緊急持ち出しファイルの作成など対策への取り組みを期待したい。

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除等で居室に入る際は声掛けやノックをする等対応している。また、敬語や言葉遣いにも配慮している	母体主催の「接遇について」の内部研修に参加されている。利用者間のトラブル防止に「トイレ使用中」の札を取り付け、利用者の羞恥心に配慮して、トイレの誘導の声かけや着衣の交換は居室で行うなどの対応をされている。	
	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買い物の希望、趣味・趣向などできる限り集団生活に支障のない形で本人の希望に沿うように意思決定してもらっている		
	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごしてもらおうように心がけているが、食事や入浴など集団での行動もあるため制約されることも多い		
	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に行きつけの美容院に連れて行ったり、普段から使用している化粧品やクリーム、ヘアケア用品を個別に購入したりして支援している		
(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等は職員と一緒にこなしている	全職員が話し合いのうえ代表が検食をして、職員は利用者ひとり一人のペースを見守りながら、刻み食の介助や居室での食事の介助に取り組まれている。利用者も食器を拭くなど、できることの残存能力支援に努められている。	
	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量を事前に聞いて調整している。また、好き嫌いの有無や日々の摂取量、咀嚼や摂食状態、体調の把握などに努めている		
	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず歯磨きをしてもらうように随時、声かけしている。義歯の方はつけ置き洗浄の声かけや介助をおこなっている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック等で排泄状況を記録し、排泄の誘導や声かけを随時おこなっている	「失禁について」の話し合いをして、職員の気づきでひとり一人のパターンを把握することで、昼間は布パンツにパットを使用していただき、時間誘導で利用者の排泄の自立に向けた支援に努められている。	
	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、数日間排便のない時は対応を協議したり、病院に相談する等の対応をしている		
(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では週2回の決まった時間に入浴している(夏季は週3回)	地域的な水不足を考慮しなければいけないが、利用者の希望にそって夏場のシャワー浴や陰部・臀部洗浄で清潔に過ごせるように努められている。	
	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中は散歩や外出等で体を動かすようにしている		
	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を挿めて、どの職員でも薬の内容について把握できるようにしている。また、服薬の際にも服薬カレンダーに薬の名称、量を掲示して職員2人でチェックするよう徹底している		
	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽や裁縫、外出など個々に興味あることや好きな食べ物について希望に応じるようにしている		
(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行にて散歩や買い物等おこなっている。場合によっては家族にも協力を依頼して外出できるようにしている	町内会長の助言により、近隣の公園のトイレがバリアフリーになり、車椅子でも気軽な散歩ができるようになった。立地条件的に初詣や買い物など外出支援が取り組める地域ではあるが、常に、安全に配慮して支援に努めている。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じて少額の金銭を所持している入居者もいる		
	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望に応じて取次ぎをしている。年賀状や手紙も希望ある人に対して支援している		
(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は季節の行事に合わせて壁に装飾したり、写真を貼ったりして生活感を与える工夫をしている	立地的に薄暗さはあるが、観葉植物・照明や彩りのある飾りつけで明るさに配慮されている。壁には、日頃の楽しみごとでの作品を掲示されている。利用者は、テレビを見たり歌を口ずさみゆったりと過ごされている。畳敷きの長いすやソファもあり、車椅子での移動に十分な広さである。	
	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファや畳椅子を設置して入居者どおしで落ち着ける、会話できるスペースを設けている		
(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別に私物のタンスや仏壇、家電を置いている入居者もいる	利用者の状況に応じ、自分の足で歩ける自信を持ってもらえるように、丈夫な手すりを居室に設置して自立に向けた取り組みをされている。自宅の表札を持参して、部屋の表において我が家として必要な身の回りの品を整えられている。	
	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ段差の少ないスペースで手すり等設置の多い空間を実現している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202163		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム スマイル 2F		
所在地	長崎県佐世保市光月町4番11号		
自己評価作成日	平成21年12月26日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7212島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

### 3評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほとんどの職員が共有しているが、新人職員がいるためすべての職員が理念共有しているとは言えないため、現在共有に向けて取り組んでいる。		
(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の納涼祭に地域の子供が参加している。また、地区の文化祭や夏祭り、防犯パトロールへの参加もおこなっている。		
	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等では地域の方と交流を通じて少しでも理解してもらえるように取り組んでいるが、介護教室の受入については実現できておらず今後の課題である。		
(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は人員不足のため開催ができなかったため、早急に開催したい		
(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市町村との連絡・相談の体制はとれている		
(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策として施錠している時間帯もあるが施錠に頼らず、徘徊のある入居者については声かけ等で落ち着いてもらうよう拘束にならない対応している		
	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会にて学ぶ機会を設け、また入浴時の皮膚観察時にも異常あれば報告できるような体制は整えている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前にも必要な入居者に対して社会福祉協議会や包括支援センター市の保険士に相談したケースもあり権利擁護については理解しているが介護職員についてはまだ理解ができていないのが現状である		
	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族に対して契約の詳細な説明をした上で納得・同意した上で契約している		
(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には職員との会話が出来る雰囲気をつくり、要望や意見を聞き取る機会を設けている。必要に応じて月2回の職員会議を設け、問題点を共有できるように徹底している		
(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案については職員会議の他、いつでも聞き取りができるようにして、代表者や管理者が必要に応じて対応している		
	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の年齢や体力、本人の希望休暇などできる限り聞き入れられるよう努力している		
	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会をしたり、外部に研修に参加する等取り組みをしている。新人職員が自立できるまでは指導役をつけるなど考慮している		
	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流をおこなったり、他施設の運営推進会議の知見者として参加している		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人が納得してもらうように相談の段階から問題点を探り関わりを持つようにしている		
	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・見学において時間前に要望その他聞き取りをおこない問題点の引き出しに努力している		
	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の有無に関わらず、相談あった場合は応じて適切なサービスを紹介する等対応している		
	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時の状況に応じて子や孫のように接したり、一緒に調理をしたりすることで関係を築いている		
	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の無理のない範囲で外食や外出、病院受診を要請したりして関係を築いている		
(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのような場所がある人には家族・知人の協力を得ながら途切れないように支援に努めている		
	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが苦手な入居者については、職員が仲介するなどの工夫をしている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に家族が面会に来たり、こちらからも他の施設や病院に面会したりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が困難な場合は家族や知人に依頼をして希望の沿った生活ができるように支援している		
	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から生活環境の把握に努め、家具を持ち込んだり、ライフスタイルや1日の流れ等を少しでも新しい生活環境に慣れるよう努めている		
	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過については申し送りで情報を共有し、過去分についてはカルテに記載して共有化を図っている		
(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や関係者の聞き取りを踏まえてアセスメントしてカンファランスを開き、アイデアを出し合って現状のケアプラン作成に努めている		
	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過は毎日記録し、プランの実践についてチェックしている。必要に応じてミニカンファランスを開き、変更や見直しに活かしている		
	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、送迎、買い物等個別のニーズには対応している		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去に地域資源を活用したケースがあり、個別に応じて対応できる体制はあるが、今現在ニーズがない		
(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医師をそのまま継続しているようにしている。家族の協力も依頼するケースもある。		
	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しながら異常ないか、日々の状態を報告できるように体制を整えている		
	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に医師と面談したり状態を確認して早期退院できるように努めており、その関係づくりもおこなっている		
(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は家族との話し合いをおこない、共有・同意をした上で事業所ができることについて説明し了解を得ている		
	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急や協力医療機関があり、かつその専門スタッフに緊急対応を依頼できるため、職員には徹底・周知していないが、連絡体制の徹底はしている		
(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施をおこなっている。連絡網には町内会長を入れ、協力体制をとっている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所時にその人の生活歴をリサーチし、好まれない話等をしないように心掛けている。入浴も個々に行い尊厳をもって対応している		
	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間等、好みのものをお出ししており、意思の疎通の出来にくい方についても表情を読み取り対応できている。衣類等も選んでいただいている		
	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ対応するように心掛けている。(入浴の順番等)職員の出勤数によっては希望の外出支援等、行えないこともある		
	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な物を選んで着ていただけるような支援を行っているが、衣類の手持ちの少ない方もおられ十分に対応できない場合もある。		
(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	協力病院から配食サービスのため職員が同じものを食べる事は出来てないが配膳や片付けは利用者と一緒にしている。		
	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じてご飯の硬さや副食の刻みかたなど工夫しており、水分補給もこまめに行っている。		
	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助を徹底しており磨き残しのチェックも出来ている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツを減らすように試しているが、オムツが外せない人もいる。トイレ誘導はかならず行っている		
	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フロア内外の散歩や水分補給による自然排便を心掛けているが下剤を飲まれている方もいる。		
(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は個々の希望に合わせている。入浴自体を面倒がられるため、自然と週2回くらいにかたまってしまっている		
	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は本人の希望で取れており、食事等の声掛けは行いが時間的な強制は行っていない。		
	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬カレンダーに効能も記しており用法や用量も分かりやすくなっており、薬の変更等も申し送りはもちろんのことカレンダーにも記している		
	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かしていただけるよう支援できしており、職員が教えていただくことも多い		
(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩はもちろんのこと、パールシー等にも家族の協力を得ながら外出支援できている。地区の文化祭や将棋クラブにも地域の人の協力が出掛けている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際はその人の力に応じて手渡し、使えるよう支援できている。		
	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけていただけるようになっており、年賀状も出していただいている		
(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に生活していただけるよう気配りを行っている。季節の花や好みのクッション等を置き居心地よく過ごせるようにしている。		
	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の配置にも工夫しており、その時々に応じて一緒に過ごしたり、1人で気ままに過ごしたりされている。		
(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や仏壇の持ち込みが自由である事をお話しており、ご本人が使いやすい配置も考えている。		
	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じてそのつど工夫できている。		